

大林組 B100燃料活用へ実証実験

万博工事の 建機に利用 資源循環プロセス構築

大林組が100%バイオディーゼル燃料（B100燃料）の活用に向けた実証実験を始めた。自社施設や一般家庭などから出た廃食用油を回収しB100燃料を精製。2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）

の建設工事で稼働する建設機械の燃料に使用。B100燃料使用時の建機のメンテナンスやモニタリング方法を確立し、エンジンへの影響評価などを調べる。燃料調達から精製、建機への供給、使用までの資源循環

プロセスの構築を目指す。実証実験は、石油製品販売・輸送の松林（京都府宮津市、松林威寿社長）、西



実験概要（報道発表資料から）

尾レントオールと共同で行う。大林組大阪本店と西日本ロボティクスセンターの食堂で使用した食用油を回収し、一般家庭などから出た廃食用油とともに製造委託先でB100燃料を精製。松林が配送を担当し、西尾レントオールの建機（油圧ショベル、発電機）に軽油の代替燃料として使う。

大林組は実証実験の開始に先立ち、JR東日本発注の「品川開発プロジェクト（第1期）4街区」（東京都港区）の現場で20%バイオディーゼル燃料を一部の建機に利用。正常に稼働できることを確認している。

今後、多様な再生可能原料を水素化処理で精製した「リニューアブル・ディーゼル燃料」を、フォークリフトに活用する実証実験も並行して実施する予定。B100燃料の活用拡大と資源循環プロセスの構築につなげ、建設現場での二酸化炭素（CO₂）排出量削減に貢献する。

